

リニア駅周辺整備計画の現状説明と意見交換会 結果概要

(平成30年度リニア駅周辺整備に係る市民説明会)

2018.12.2 飯田市公民館

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 リニア駅周辺整備計画の現状説明 佐藤 健 副市長
- 4 講演「駅前空間をみんなでつくり上げよう（全国の事例から）」  
(有)ハートビートプラン 泉 英明 氏
- 5 高校生からのアイデア・ビジョン等の発表
- 6 意見交換会
- 7 閉会



○ 出席いただいたリニア駅周辺整備デザイン会議学識者

小澤 一郎 公益財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター顧問

大西 達也 一般財団法人 日本経済研究所 常務理事 調査局長

鈴木 弘司 名古屋工業大学社会工学科准教授

上原 三知 信州大学総合理工学研究科准教授

○ 高校生からのアイデア・ビジョン

発表① 創生には欠かせないリニア

- ・飯田は、住む町として最適。誰に住んでほしいか若者をターゲットに考えた。
- ・飯田は、生活環境・仕事環境がリニアにより融合することができる。パソコンなどでのデスクワークを主眼に開発分野で最先端になれる。
- ・今から飯田の良さを外部発信して、住む町として発展させていく。

発表② Linear café（地元高校生、地元出身の大学生でリニア駅のことを話し合っているグループ）

- ・トンネル透明化
- ・2段遊歩道
- ・駅前農地計画 駅に人が来るものと捉えない。駅で農業をできる仕組みをつくり集客も狙う。
- ・シェアリングエコノミー、完全自動運転
- ・リニア放課後割



○ 意見交換会での意見（司会進行：泉）

会場からの質疑、感想等	学識者より
<p>VR（バーチャルリアリティ）等、全体的には、楽しく見せていただいた。</p> <p>駐車場は、750 台で想定していたが、自動運転がかなり進むと大きな駐車場はいらわないのではないか。そうすると駅前は畑や田んぼにし、冬にはおんべをやったらいいのでは。</p> <p>電柱が周りにあることにより景観が悪くなる。駅前は地中化になると思われるが、少し離れると電柱が出てくる。景観としてどうなのか</p> <p>意見交換会に参加するまではリニアに対して、否定的な意見を聞いてきた。どのように整備していくかなど聞いて、考えが変わった。知らないまま否定できだった。どういふことをやっていかか考えていかないといけないと感じた。</p> <p>ワークショップに参加している。ワークショップには、これからのリニアを背負って立つのは自分であるという気持ちで参加している。自分は、家族、同僚に情報提供している。</p> <p>焼肉ロックフェスをやっているが、このような活動をリニア駅とリンクさせていく。人形劇などもどう結び付けていき、世界に誇れる飯田を考えて行動をとっていくことが大切。</p> <p>楽しいと思えるのは、ワークショップでもそうだが、自分の意見が反映されていることである。</p> <p>飯田線乗換新駅についてもほしいから作ってくださいというスタンスであれば絶対にできる。そのようなスタンスで行動し、地道にリニア駅のファンを作っていくことが大切である。</p>	<p>自動運転等技術が進んでいる中で、どのようなプランニングにするか。現在は過渡期である。</p> <p>駐車場の台数については、これまでのものの積み上げの中で、はじかれた数字である。今後、駅に停めておく必要がなくなる可能性はある。今設計で考えているのは、可変性を持たせることである。完全自動運転化については、10 年先にも実現していないのではないか。部分的にこの場所は自動運転という段階。リニア駅周辺では、先んじて自動運転の利用等を行っていくと自動運転が地域に入っていくやすくなる。駅の駐車台数は大切だが、世の中の動きを見据えつつ、中心市街地との関係も大切になってくる。</p> <p>駐車場は、駐車場としても使えるが、広場としても使えるようなグリーンインフラという多機能性を持たせたい。バランスを取りながら検討していきたい。</p> <p>駅周辺の整備区域は、電柱、下水上水等のインフラは地下化する。今回の整備では、下水上水はもちろん、木質バイオマス等の必要なインフラと一緒に地中化する。このエリアはゼロエミッションを目指している。これに係るものは地中化し、一緒に整備することで、コスト面を抑えられる。実施設計で具体的に考えていく。</p> <p>周辺に広げていくのはその次の議論。</p> <p>このような話は知られていない。知らない不安になると思われる。このような話し合いを積み重ねていきたい。</p> <p>リニアが来て一気に変わることはなく、みなさんが楽しんでいる姿が大切ではないか。</p>